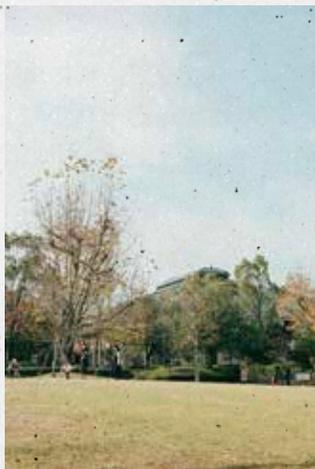


滋賀県

# 文化芸術 × 共生社会プロジェクト

2020年度・2021年度  
事業報告書



## 文化芸術 × 共生社会プロジェクト

2020年度-2021年度  
事業報告書

はじめに.....	1
「文化芸術 × 共生社会プロジェクト」について.....	2
2020年度 モデル事業成果報告.....	3
2021年度 フェスティバル事業成果報告.....	9
地域連携事業Ⅰ.....	10
地域連携事業Ⅱ.....	14
文化産業交流会館事業Ⅰ.....	16
文化産業交流会館事業Ⅱ.....	18
文化芸術 × 共生社会フェスティバル in 美術館.....	20
地域の劇場・音楽堂等連携事業.....	22
びわ湖ホール事業.....	24
〈関連企画〉滋賀県立美術館企画展.....	26
文化芸術 × 共生社会の未来を語る	
音楽 & トークイベント.....	28
REPORT 文化芸術 × 共生社会の未来を語る	
音楽 & トークイベント.....	30
来場者アンケート集計結果／広報物について／	
アクセシビリティ・アイコンの制作.....	32
関連団体一覧.....	34
2021年度関連事業.....	35
障害者等の文化芸術活動のための相談窓口.....	36

## はじめに

滋賀県では、2020年3月に「滋賀県障害者文化芸術活動推進計画」を策定し、多様な人々が支えあうことにより、障害の有無にかかわらず誰もがともに、多彩な文化芸術活動に親しみ、活躍する環境の実現を基本目標に、障害者による文化芸術活動を推進しています。その実践として、2020年度に「文化芸術×共生社会プロジェクト」を立ち上げ、県内の文化団体、福祉団体、NPO法人、県や市町などが連携し、文化・福祉分野の両面から取組を進めてまいりました。2021年度にはプロジェクトの集大成として「文化芸術×共生社会フェスティバル」と題し、バリアフリー公演や障害のある方の造形活動、年齢を問わず鑑賞できる音楽公演など、共生社会の実現に向けた文化芸術イベントを県内各地で開催しました。

障害のある人もない人も同じ環境で、文化芸術に親しむために必要なことを考えながら取組を進めましたが、求めている情報と提供される情報に違いがあるという声もいただきました。障害のある人となない人が互いの立場を理解し、思いを分かちあうことが、共生社会の実現に必要な過程であると思います。こうした経験を少しでも多くの方と共有するため、2年間の取組を本冊子にまとめました。

多様な人が「ともに生きる」社会では、文化芸術の楽しみ方も多様です。この冊子を手にとっていただいた皆様が、文化芸術による共生社会づくりを自分事として捉え、誰もが多彩な文化芸術に親しみ、交流を通して相互理解が深まる機会が、ひとつでも多く生まれて広がることを期待しています。

結びに、本プロジェクトの趣旨に御賛同いただき、模索しながらも事業を実施いただいた各団体の皆様に御礼申し上げるとともに、この冊子が、誰もが参加し、楽しめる、文化芸術活動の企画立案の一助となれば幸いです。

2022年3月

「文化芸術×共生社会プロジェクト」実行委員会委員長

(滋賀県文化スポーツ部長)

中嶋 実

## 「文化芸術×共生社会プロジェクト」について

滋賀県は、2020年3月に「滋賀県障害者文化芸術活動推進計画」を策定し、多様な人々が支えあうことにより、障害の有無にかかわらず、誰もがともに多様な文化芸術活動に親しみ、活躍する環境の実現を目指しています。これを受け、2020年度には、県内の文化団体や福祉団体、県や市などが連携する「文化芸術×共生社会プロジェクト」実行委員会を組織し、全10事業の「モデル事業」を実施。2021年度は、その成果をもとに、関係団体との連携をより深め、誰もが文化芸術活動に参画できる事業を「文化芸術×共生社会フェスティバル」として開催しました。

### 実行委員会構成員

湖北アール・ブリュット展推進会議理事長	滋賀県健康医療福祉部障害福祉課長
社会福祉法人グロー法人事務局芸術文化部	滋賀県立美術館副館長
世界にひとつの宝物づくり実行委員会会長	公益財団法人びわ湖芸術文化財団理事長（副委員長）
特定非営利活動法人はまかる代表理事	公益財団法人びわ湖芸術文化財団法人本部地域創造部長
草津市教育委員会事務局生涯学習課長	公益財団法人びわ湖芸術文化財団びわ湖ホール事業部長
滋賀県文化スポーツ部長（委員長）	公益財団法人びわ湖芸術文化財団文化産業交流会館事業課長

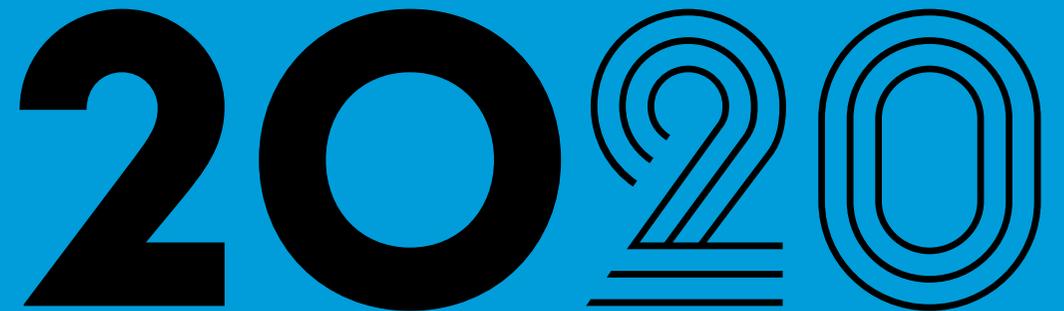
### 実施事業とスケジュール



\*事業名、実施期間、主催団体を記載  
\*主催団体のうち「文化芸術×共生社会プロジェクト」実行委員会と滋賀県は省略

2020年度は、滋賀県各地で活動するさまざまな主体との協働により、次年度に予定された「文化芸術×共生社会フェスティバル」の実施に向けた連携体制を構築しました。ここでは、事業の浸透と体制づくりのために実施された10のモデル事業の概要を紹介します。

2020年度  
モデル事業  
成果報告





2

ねんどでフロッタージューまち、公園、学校を写しとろう！ー



世界にひとつの宝物づくり実行委員会  
(滋賀県立陶芸の森)

特別支援学校、障害者福祉施設を利用する方々、外国にルーツを持つ方々を対象にワークショップを実施し、作品をギャラリーで一般公開。参加者と陶芸家の創作風景を記録したYouTube配信も。

日程：2020年6月1日(月)～2021年3月28日(日)  
会場：滋賀県立陶芸の森、信楽町内各所、県内特別支援学校  
来場者数：ワークショップ(2回合計)39人/展覧会1,239人  
/YouTube視聴(8本合計)834回 ※2021年3月31日時点

3

地域の劇場・音楽堂等での文化芸術体感事業

リラックスパフォーマンス「ようこそ、バレエの世界へ」



滋賀県立文化産業交流会館

劇場空間での鑑賞に不安を抱える方でも参加しやすい環境を整え、スターダンサーズ・バレエ団による「シンデレラ」などを公演。特別支援学校向けバレエ体験ワークショップも企画・準備しました。

日程：2020年10月10日(土)  
会場：滋賀県立文化産業交流会館イベントホール  
来場者数：386人  
※県内の特別支援学校を対象としたバレエ体験ワークショップは、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

11

まちなかアール・ブリュット展開催事業



湖北アール・ブリュット展推進会議

2012年から継続的に取り組んできたプログラムの一環で、本事業に参画。長浜市内のさまざまな場所を会場に、アール・ブリュットの作品を発表する展覧会や子どもたちのための陶芸教室など4つの催しを開催しました。

①湖北のアール・ブリュット2020-地域と共に育ち、生きる-

日程：2020年7月15日(水)～9月28日(月)  
会場：十里街道生活工芸館テオリア ギャラリー  
来場者数：約700人

②湖北のアール・ブリュット展2020

日程：2020年11月20日(金)～23日(月・祝)  
会場：長浜市曳山博物館 伝承スタジオ  
来場者数：約200人

③まちなかアール・ブリュット

日程：2020年11月18日(水)～23日(月・祝)  
会場：長浜まちなか中心市街地一帯

④アール・ブリュット創作工房2020

日程：2020年7月18日(土)、26日(日)、10月3日(土)、  
8日(木)、9日(金)、11月19日(木)、20日(金)、  
12月3日(木)、4日(金)  
会場：十里街道生活工芸館テオリア 工作室  
参加者数：46人

4

障害者等の舞台芸術発信事業

湖南ダンスカンパニー×糸賀一雄記念賞音楽祭ユニット公演 音と身体で綴る叙情詩「湖」



滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール

知的障害のある方や福祉施設の職員らによって構成されたダンスグループ「湖南ダンスカンパニー」による、即興を交えた音楽との共演で制作されたダンスパフォーマンスを上演しました。

日程：2020年10月11日(日)  
会場：滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール 中ホール  
来場者数：317人

## バリアフリー演劇鑑賞会 舞台の感動わかち合い「ヘレン・ケラー～ひびき合うものたち」



## 公益財団法人 びわ湖芸術文化財団 地域創造部

会場に舞台手話通訳、字幕、音声ガイドなど、視覚・聴覚障害のある方のための鑑賞環境を整え、障害の有無にかかわらず、ともに楽しめる演劇「ヘレン・ケラー」(出演:東京演劇集団 風)を上演。

日程: 2020年10月25日(日)  
会場: 甲賀市碧水ホール  
来場者数: 128人

## 障害者等の文化芸術活動を支える人づくり研修会



## 「文化芸術×共生社会プロジェクト」実行委員会、公益社団法人 全国公立文化施設協会

劇場・音楽堂などで働くスタッフや行政の文化担当課職員、福祉施設を運営する方々を対象とした研修会を実施。障害のある人の文化活動支援に役立つノウハウや情報をレクチャーしました。

日程: 2020年11月30日(月)  
会場: 滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール 中ホール  
来場者数: 141人

びわ湖☆アートフェスティバルBAF2020クリスマス  
BAFジュニアオーケストラ・フェスティバル文化プログラムフェスティバル事業実行委員会  
(滋賀県、公益財団法人 びわ湖芸術文化財団、株式会社しがぎん経済文化センター)

障害のある方もない方も、誰でも気軽に音楽を楽しめるよう、「サウンドハグ」などの鑑賞補助器具を導入し、滋賀県内のジュニアオーケストラ3団体による演奏会を開催しました。

日程: 2020年12月20日(日)  
会場: 滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール 大ホール  
来場者数: 421人(うちサウンドハグ席19人)

## 障害のある方と共に創る演劇ワークショップ事業



## 特定非営利活動法人 はまかる

演劇活動を通じて、障害の有無にかかわらず、豊かな表現活動を行う場を地域に創造することを目的として開催。新型コロナウイルス感染拡大防止のため演劇ワークショップは中止となりましたが、障害のある方との演劇活動を行う有識者を招き、ワークショップ形式で講習会を開催した研修会事業には、地域の団体や、障害者福祉に興味のある方々など16名が参加しました。講師の永山智行さんによる演劇ワークショップの後、永山さん自身の経験や事業の内容を講演形式で伺い、今後の障害者との演劇ワークショップの可能性や、地域での必要性、重要性を学ぶことができました。

磯崎真一(特定非営利活動法人はまかる 代表理事)

## ①研修会事業

日程: 2020年11月3日(火・祝)  
会場: セミナー&カルチャーセンター臨湖  
来場者数: 16人

## ②演劇ワークショップ事業

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

## まちなかオンライン&amp;ルーフトップコンサート

草津市、草津市教育委員会、  
公益財団法人 草津市コミュニティ事業団

駅前の空間を活用することで、仕事や勉強などに忙しく文化に触れる機会が少ない人や障害のある方でも、気軽に鑑賞できるコンサートを開催しました。あわせて、来場が困難な方に向けたYouTube配信と駅周辺での音源の放送を実施し、YouTubeを活用して施設での集団鑑賞を実施いただくなど、コロナ禍におけるコンサートのモデルケースとなる取組にも挑戦。また、音源の放送にあわせ、niwa+の敷地内に屋外飲食スペースを設けていただくなどの波及効果もあり、事業者、企画をともに検討したNPOなど多様な主体との連携を深めることができました。

松岡秀樹(草津市教育委員会事務局生涯学習課)

## 日程: 2020年11月13日(金)

会場: 近鉄百貨店草津店 屋上駐車場、草津駅東口広場  
来場者数: 565人(会場来場者78人、YouTube視聴者208人、音源鑑賞者279人)

## 10 劇場体験プログラム～みんなともだちコンサート～



日程：2021年2月28日（日）  
会場：草津市立草津クリアホール  
来場者数：480人

草津市、草津市教育委員会、  
公益財団法人 草津市コミュニティ事業団

障害などを理由として劇場環境に馴染みにくい方も、リラックスして楽しめるコンサートを開催しました。看護師・手話通訳・要約筆記の配置や休憩室を準備するほか、車椅子OK、ベビーカーOKなどのピクトグラムを使用した、誰にでもわかりやすい広報物を作成。また、ケアリングクラウン（心のケアを行う道化師）のサポートのもと、ビエロの赤鼻を模したシールやアイマスクを配布し、発声や身体的接触が難しいコロナ禍でも会場の一体感を醸成する参加型のプログラムを実施。赤ちゃんから高齢者まで約500人の笑顔があふれる公演となりました。

松岡秀樹（草津市教育委員会事務局生涯学習課）



2021年度は、前年度のモデル事業を土台としたフェスティバルを開催。県内各地の事業者により、共生社会の実現に向けたさまざまな文化事業が実施されました。ここでは、11のプログラムと関連事業について、成果やこれからは役立つ豆知識などを紹介します。

2021年度  
フェスティバル事業  
成果報告

# 2021



日程：2021年9月15日（水）～10月11日（月）  
 会場：十里街道生活工芸館テオリア ギャラリー  
 料金：無料  
 主催：湖北アール・ブリュット展推進会議、  
 「文化芸術×共生社会プロジェクト」実行委員会  
 協力：社会福祉法人 虹の会ハーモニー、  
 滋賀県立近江学園  
 後援：長浜市  
 来場者数：350人

●乳幼児可（0歳～） ●補助犬可

## 「湖北のアール・ブリュット」展を終えて

この展覧会は、来場者にアール・ブリュット、ひいては障害のある人への理解を深めることを目的に、2012年から毎年開催しています。滋賀県湖北地域を中心とした障害のある人による作品づくりを推進しながら育んできました。今年度は、前年度に制作された作品に福祉施設の余暇活動で制作された作品を加え、さらに湖西地域からも作品を募り、約60点の作品を展示。例年であれば、作品を介して作家と来場者が交流できる場づくりを行います。今年はコロナ禍で障害のある方の活動が限定的にならざるをえませんでした。会場での直接的な交流は難しかったものの、「パラリンピックに続き、大きな感動をもらえました」など本展を高く評価して下さる感想も多く、来場者のみなさんには作品から多くのものを感じ取っていただけたことと思います。

廣部猛司

（湖北アール・ブリュット展推進会議 理事長）



## 事業を振り返る Q&A

Q 同様のプログラムを実施する際に役立つ情報やアイテムはありますか？

A 市が自治会に向けて発送する広報物の活用で、地域での周知が格段に捗ります。今回は、長浜市広報報道室としょうがい福祉課に御協力いただきました。

Q 印象に残った参加者の声を教えてください。

A 「身近で不思議な感覚を覚えた。作者紹介と一緒に展示されていると、作者の気持ちと一緒に見ることができて楽しかった」という感想をいただいたことが印象的でした。

Q 今後取り組んでいきたいこと、課題や気づきを教えてください。

A 昨今のコロナ禍で、福祉施設内外での障害のある人のアート活動が停滞する傾向にあります。この状況を克服できる方法や手段を検討していきたいです。





日程：2021年11月11日（木）、12日（金）、18日（木）、19日（金）、12月4日（土）、2022年1月15日（土）  
 会場：十里街道生活工芸館テオリア 工作室  
 料金：無料  
 主催：湖北アール・ブリュット展推進会議、「文化芸術×共生社会プロジェクト」実行委員会  
 協力：社会福祉法人 湖北会  
 後援：長浜市  
 来場者数：29人

●乳幼児可（0歳～） ●補助犬可



日程：2021年11月28日（日）  
 会場：ながま文化福祉プラザ さざなみタウン調理室  
 料金：1,000円  
 主催：湖北アール・ブリュット展推進会議、「文化芸術×共生社会プロジェクト」実行委員会  
 協力：長浜和菓子協会  
 後援：長浜市  
 来場者数：13人

●乳幼児可（0歳～） ●車いす可 ●補助犬可

福祉施設内では取組が難しい陶芸を、いつもとは違う環境でのびのび制作することが本事業の特徴です。障害のある方にとって生活の場であり、仕事場でもある施設を出て、地域のなかで行う作品づくり。そこで生まれた作品を出品候補作として次の年に展覧会を実施し、創作が多くの方の目に触れる場をつくってきました。この循環は参加者の創作意欲につながり、繰り返すことで心のバリアも薄らいでくるようです。参加者・団体からは、コロナ禍でいろんなものが自粛されるなか「創作工房はこの先もぜひ続けてほしい」との声がありました。

廣部猛司

（湖北アール・ブリュット展推進会議 理事長）

### 事業をふり返る Q&A

- Q 実施プロセスで、成功の鍵となったものは？
- A 「緊急事態宣言下でも、状況が許せば必ず参加したい」という参加者の強い意向です。感染状況を見ながらの判断でしたが、無事開催することができました。

- Q 今後取り組んでいきたいこと、課題や気づきを教えてください。
- A 地域のデイサービスとの協力体制をつくり、土曜日の学童保育の放課後に実施することなどができれば、より良い時間がつくれるのではないかと考えています。

創作工房で粘土を扱う様子を見て、それが食べられたらもっと楽しいだろうとの発想から、はじめての取組として開催しました。材料の練り切りはやわらかいため加工が簡単ですが、それだけにきれいな形をつくるのが難しく、創作意欲が刺激される素材です。どんどん作品をつくる参加者、造形を通して和菓子に興味を持つ保護者など、思い思いに制作を行いました。保護者同伴とはいえ、さまざまな子どもたちを前に神経を使いましたが、私たちスタッフも含め参加者全員が楽しみ、子どもたちに外に出る楽しみを感じてもらえた事業となりました。

廣部猛司

（湖北アール・ブリュット展推進会議 理事長）

### 事業をふり返る Q&A

- Q 実施プロセスで、成功の鍵となったものは？
- A 緊急事態宣言下の延期で、広報効果も減少。その際、障害のある子どもの保護者を対象とする相談事業「かけしサロン」から参加希望者がたくさんいると聞いたことが力となり、無事実施に漕ぎつけました。

- Q 印象に残った参加者の声を教えてください。
- A 保護者からのメッセージです。「帰宅後『ばあちゃんにお土産！』と嬉しそうに渡していました。当分、図書館の前を通るたびに『お菓子つくったなあ〜』と言いつけるでしょう」



会場： 滋賀県内の学校（愛荘町立愛知中学校、近江八幡市立八幡西中学校、甲賀市立信楽小学校、東近江市立湖東中学校）、社会福祉法人しがらき会 信楽青年寮、滋賀県立陶芸の森公園（創作室、創作研修館ギャラリー）、たいさんじ風花の丘

料金： 無料

主催： 世界にひとつの宝物づくり実行委員会（滋賀県立陶芸の森）、  
「文化芸術×共生社会プロジェクト」実行委員会

後援： 滋賀県教育委員会、愛荘町教育委員会、  
近江八幡市教育委員会、甲賀市、甲賀市教育委員会、  
東近江市教育委員会、高島市、高島市教育委員会

連携団体： 社会福祉法人グロー（アール・フルーツインフォメーション&  
サポートセンター）、社会福祉法人しがらき会信楽青年寮

ワークショップ参加者数： 69人

展示会来場者数： 滋賀県立陶芸の森 80人/たいさんじ風花の丘 335人

●乳幼児可（0歳～） ●車いす可 ●補助犬可

日程：

1：ワークショップ \*すべて2021年実施

愛荘町立愛知中学校：7月7日（水）

近江八幡市立八幡西中学校：7月9日（金）

甲賀市立信楽小学校：9月7日（火）

東近江市立湖東中学校：9月8日（水）

甲賀市立土山小学校：10月6日（水）

2：展示会

滋賀県立陶芸の森：2021年10月16日（土）～24日（日）

たいさんじ風花の丘：2021年11月20日（土）～23日（火・祝）

3：YouTube配信

2021年10月15日（金）～2022年3月31日（木）

## みんなでもそう——地域に根ざした創作体験

誰もがともに文化芸術活動に親しみ活躍する環境づくりの一環として、粘土を使って野外のさまざまな模様を写し取り、そのピースを貼りあわせるランタンづくりを実施。また、展示・YouTubeなどを通して、滋賀の伝統文化であるやきものの認知・関心の向上を図りました。展示では、複数の学校・施設でつくった作品を一堂に集めて光を灯し、個と集合の美を共有。この取組を通じ、地域との関わりが薄くなりがちな障害のある子どもたちに、地元で根ざした創作体験を提供することができました。また、「陶芸の森」から距離があり、今まで粘土体験できなかった県内の学校も参加することで、文化理解の促進につなげることができました。コロナ禍にあって、のびのびと活動できる屋外の散策、やわらかい土の感触が子どもたちの心を開放するプログラムとなりました。

宮本ルリ子

（世界にひとつの宝物づくり実行委員会）



## 事業をふり返る Q&A

Q 参考にした先行事例や書籍はありますか？

A 国立民族学博物館・広瀬浩二郎編『ユニバーサル・ミュージアム：さわる！“触”の大博覧会』（小さき社、2021）。陶芸の森内でユニバーサル・ミュージアム研究会を開催した際、粘土にものを写し取る技法や活動を町内にまで展開させたことが、今回の取組につながりました。

Q 同様のプログラムを実施する際に役立つ情報やアイテムはありますか？

A 窯で焼かずに固められ、素焼きの感じも出せる粘土\*が便利です。芯材が使えるので、ペットボトルや空き缶に貼りつけて、同様のプログラムを行うことができます。この粘土は乾燥後、アクリル絵具での彩色も可能です。

\*「はにわねんど」紫香楽教材粘土株式会社

Q プログラムを実施して新たな発見はありましたか？

A 粘土を押さえつけて何かを写し取るのは単純な行為ですが、見慣れた場所が粘土に写されることが新たな発見につながる活動でもありました。ほぼすべての参加者が嬉々として取り組んでくれたことが驚きでした。また、成果物を周囲の人で見せあうなど、活気ある交流になったことが予想以上の成果でした。





日程：2021年10月10日（日）15:00開演  
会場：滋賀県立文化産業交流会館 イベントホール  
料金：一般2,000円、青少年（25歳未満）1,000円、  
障害者手帳をお持ちの方1,000円、介助の方（1名）1,000円  
主催：滋賀県立文化産業交流会館、  
「文化芸術×共生社会 プロジェクト」実行委員会  
後援：滋賀県教育委員会、滋賀県吹奏楽連盟、  
中部日本吹奏楽連盟 滋賀県支部  
来場者数：283人

●手話通訳（アナウンス・トーク） ●ヒアリンググループ席 ●車いす席あり（席が選べます）  
●補助犬可 ●入場料割引（障害者・介助者）

## 会場が一体となった参加型コンサート

クラシック音楽のコンサートがはじめての方や小さなお子さま、障害がありホールでの音楽鑑賞に不安がある方など、さまざまな方が一緒に舞台芸術を楽しめることを目指し実施しました。プログラムは、吹奏楽ファンからはじめての方まで親しめる曲を選定。また、指揮者体験コーナーや観客と一緒に演奏する打楽器曲など、聴くだけでなく参加できる工夫も行いました。手話通訳・ヒアリンググループエリアの配置や、客席の照明を完全に暗くせず、リラックスして鑑賞できる仕組みづくりにも注力。チラシには「車椅子席あり」「手話通訳あり」「ヒアリンググループ対応」などのピクトグラムを使用し、障害者福祉施設や子育て支援施設への配架にも取り組みました。コロナ禍において、久しぶりに会場が一体となった雰囲気を楽しんでいただくことができました。

白崎清史

（滋賀県立文化産業交流会館 舞台技術課長）



## 事業を振り返る Q&A

Q 印象に残った参加者の声を教えてください。

A 「障害のある11歳の娘はオーケストラなどの本物の音楽が大好き。会場に入るまでは泣きますが、公演中はとても集中して観ます」「8歳の娘は車椅子。なかなか車椅子席がないので、いつもは膝の上で抱っこして観ています。今日は一番前、バギーで見られて楽しそうでした」などの感想がありました。

Q 共生社会の実現のために必要なことは何だと思いますか？

A 文化芸術に限らず、スポーツ活動や普段の生活を過ごすなかで、互いを認め、自然体でいられることが大切だと感じています。

Q 実施プロセスで、成功の鍵となったものは？

A 進行や曲目解説の手話通訳を手配し、壇上のレイアウトを工夫。コンサートとうまく融合しました。





日程：2021年11月23日（火・祝） 14:00 開演  
 会場：滋賀県立文化産業交流会館 イベントホール  
 料金：一般2,000円、青少年（25歳未満）1,000円  
 主催：滋賀県立文化産業交流会館、  
 「文化芸術×共生社会 プロジェクト」実行委員会、滋賀県  
 後援：滋賀県教育委員会、彦根市、彦根市教育委員会、  
 長浜市教育委員会、米原市教育委員会  
 来場者数：288人

●乳幼児可（0歳～） ●車いす席あり（席が選べます） ●補助犬可

## 年齢のバリアフリー化

0歳児からお年寄りまで幅広い世代の方々に、そして普段、舞台芸術に触れる機会の少ない方にも気軽に楽しんでもらえるコンサートを目指して実施。プログラムは子どもから親世代、祖父母世代まで楽しめる曲を選定し、子どもたちが集中して聴けるよう1曲の長さを4分までとしました。普段コンサートに行きたくても行けない子育て世代の来場者が多く、子どもと一緒に体を揺らしたり手振りをしながら演奏を楽しんでいる様子が見られました。なかでも、びわ湖ホール声楽アンサンブル・ソロ登録メンバーと大阪交響楽団 特別アンサンブルによる本格的な生の演奏を幼い頃から聴くことができる点が好評でした。ベビーカーのまま鑑賞いただける席は完売。0歳児連れのご家族が想定より多く、このような機会を多くの方が求めていることが実感できました。

吉井美花

（滋賀県立文化産業交流会館 事業課）



## 事業を振り返る Q&A

Q 印象に残った参加者の声を教えてください。

A 「3歳の娘とはじめてのコンサート。『0歳児からの』というコンサート名がわかりやすく、ハードルが低く安心して申し込みできた。子どもたちが泣いたりしても、自由に聞ける雰囲気が良かった」という感想が印象に残っています。

Q 同様のプログラムを実施する際に役立つ情報やアイテムはありますか？

A 子どもが泣いたり歩き出したり、途中で出入りするお客さまもいる可能性がある公演だと、事前に来場者へ情報共有しておくこと。また、プレイヤーの理解と積極的な協力を得ることも大切だと感じました。

Q 今後取り組んでいきたいこと、課題や気づきを教えてください。

A 4歳～25歳が同じ青少年料金（1,000円）だったことが影響したのか、小学生程度の来場者が想定より少ない数に留まりました。「4歳～小学生」という料金設定が必要だと感じています。





日程：2021年11月14日（日） 16:30開演  
会場：滋賀県立美術館 木のホール（トーク）、  
びわこ文化公園 催し物広場（野外上映）  
料金：無料  
主催：滋賀県立美術館、「文化芸術×共生社会 プロジェクト」実行委員会  
協力：社会福祉法人やまなみ会 やまなみ工房  
来場者数：関連トーク 45人／野外上映会 51人

●手話通訳（アナウンス・トーク） ●字幕（日本語） ●車いす席あり（席が選べます） ●補助犬可

## 表現の根源とその多様性を感じる場

2022年1月から当館で開催するアール・ブリュットをテーマとした企画展のプレイベントを兼ね、映画『地蔵とリビドー』の野外上映会と関連トークを開催。展示会の出展作家も所属する障害者福祉施設「やまなみ工房」の協力のもと、工房での創作現場をとらえたドキュメンタリー映画の上映と、映画への理解がより深まる関連トークを組みあわせ、参加者に人間の表現欲求の根源やその多様性について感じ、考えていただくことを目指しました。コロナ禍においても安心して気軽に参加していただけるよう、映画の上映は公園内の立地を活かして野外（催し物広場）を会場に。トークは手話通訳付きでオンライン配信とアーカイブ配信を行い、現地およびオンライン視聴で延べ100人にご参加いただくことができました。

木村元彦  
（滋賀県立美術館 副館長）



## 事業をふり返る Q&A

Q 運営にあたり、もっとも苦心した点は？

A コロナ禍において開催が危ぶまれるなか、イベントを成立させるための手法についてさまざまな議論を交わしました。最終的に、野外上映会とトークのオンライン配信を選択し、より多くの方々に観覧していただくことができました。

Q 今後取り組んでいきたいこと、課題や気づきを教えてください。

A つくり手に障害のある方が多いアール・ブリュット作品を美術館の活動の柱とするとともに、多様な鑑賞者が楽しみ、かかわることのできる仕組みづくりを行い、両側面から取り組んでいきたいです。

Q 共生社会の実現のために必要なことは何だと思いますか？

A 「共生社会＝障害者に関すること」にイメージが限定され、逆にカテゴライズが進んでしまうことのないよう、今年度の事業で得られた成果をモデルとして、全体の事業に波及させていくことが重要と感じました。

アーカイブ動画はこちらから  
ご視聴いただけます



わたしの表現！フェスティバル



劇団 まちブロー座公演「紫の夜が明けるとき」  
 日程：2022年1月29日（土） 14:00開演  
 会場：草津市立草津アマカホール  
 料金：無料  
 主催：公益財団法人びわ湖芸術文化財団、  
 「文化芸術×共生社会 プロジェクト」実行委員会  
 共催：草津市教育委員会、公益財団法人草津市コミュニティ事業団  
 協力：社会福祉法人共生シンフォニー  
 来場者数：65人

- 筆談可（受付時） ●手話通訳（上演中・トーク） ●字幕（日本語）
- ヒアリンググループ席 ●車いす席あり ●補助犬可

「陰影来SUNダンス」  
 佐久間新&鈴木潤&たんぼの家 身体表現ワークショップ  
 日程：2022年2月26日（土）  
 会場：草津市立市民総合交流センター キラリエ草津  
 料金：無料  
 主催：公益財団法人びわ湖芸術文化財団、  
 「文化芸術×共生社会 プロジェクト」実行委員会  
 共催：草津市教育委員会、公益財団法人草津市コミュニティ事業団  
 協力：たんぼの家アートセンターHANA  
 来場者数：27人

- 筆談可（受付時） ●手話通訳（アナウンス） ●車いす可 ●補助犬可



文化芸術×共生社会のためのショーケース

差異を越えて、多様な人が一緒に表現活動を行っている団体を紹介するショーケースを企画しました。コロナ禍で、当初計画していたふたつのワークショップ（以下WS）は実現できず、演劇公演と身体表現WSを2日間に分けて開催。演劇公演では、プレゼンテーションソフトを使用した字幕投影と手話通訳による鑑賞支援を実施しました。県内ではほとんど前例がなく、劇団としても初の試みであり、主催者、出演団体の双方にとって貴重な経験の機会となりました。身体表現WSは、コロナ対策として会場での参加のほか、オンライン参加も可能に。遠隔で画面越しにどのような出会いと交歓の場を創造できるか、手探りでの実施となりました。「誰もが参加できる」環境を整えるために、どんな条件の方にも対応できる、柔軟な姿勢と経験の積み重ねが必要だと感じました。

西前 悠

（公益財団法人びわ湖芸術文化財団 法人本部 地域創造部）



事業をふり返る Q&A

Q 今後取り組んでいきたいこと、課題や気づきを教えてください。

A 取組へのニーズは、実践を継続することで顕在化してくると実感することができました。今後は、視覚障害のある方への鑑賞支援、海外国籍の方々に向けた参加や鑑賞のためのプログラムにも取り組んでみたいです。また、ヒアリンググループはホール内の特性や集音マイクの種類、設置場所などに影響を受けるため、PA（音響機材）を使用しない演劇公演やクラシック音楽公演でも有効に使用できるのか、当事者にご協力いただきながら検証することが必要だと感じています。

Q 同様のプログラムを実施する際に役立つ情報やアイテムはありますか？

A 視覚・聴覚障害者へのサポートがあるイベントは、県立の視覚障害者センターや聴覚障害者センターが発行する情報誌への掲載が効果的。発行が月1回程度なので、早めの情報提供を。また、同行支援の手配を要する方々へも早めの周知が必要です。



(ドヴェ) マーシャ ほく歩いて帰るよ  
(ホリーナ) どうぞ皆さん



日程：2022年2月13日（日） 14:00開演  
会場：滋賀県立芸術劇場 びわ湖ホール 中ホール  
料金：大人1,000円、子ども（4歳～中学生）500円  
主催：滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール、  
「文化芸術×共生社会 プロジェクト」実行委員会  
後援：滋賀県教育委員会  
手話通訳協力：NPO法人 シアター・アクセシビリティ・ネットワーク（TA-net）  
来場者数：442人

●手話通訳（上演中） ●字幕（日本語） ●ヒアリングループ席  
●託児あり ●車いす席あり（席が選べます） ●補助犬可

## ロシア演劇の名作を「バリアフリー」な朗読劇で

どなたでも参加・鑑賞しやすい「バリアフリー」な公演を目指して、出演者を公募しみんなで作った朗読劇を上演しました。7月のオーディションには約100名の応募があり、選ばれた約30名がプロの演出家や俳優とともに作品づくりに参加。11月から約3カ月の稽古期間を経て、年齢や性別、障害の有無や演技経験の差を越えた交流の輪が生まれました。また、1月には関連企画「演出家による『かもめ』講座」を開催し、チャーホフ戯曲の見どころを映像資料を用いてわかりやすく紹介。公演当日は、セリフの情感も含めて手話に変換する「舞台手話通訳」を取り入れたほか、要約字幕の掲出や車いす席の増設、点字パンフレットの全員配付などを行いました。障害の有無を問わず、これまで劇場に足を運ぶ機会の少なかったお客様に朗読劇の魅力を味わっていただくことができました。



藤原望美

（滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール 事業部）

## 事業を振り返る Q&A

Q 同様のプログラムを実施する際に役立つ情報やアイテムはありますか？

A 広報面では、障害当事者が所属されている団体にご協力をお願いしたところ、大きな効果がありました。普段から関係を築いておくことの重要性和クチコミの影響力の強さを実感しました。

Q 共生社会の実現のために必要なことは何だと思いますか？

A 「普通はこうだから」「今までこうしてきたから」という固定観念にとらわれず、新しい視点を柔軟に取り入れること。そして「共生社会における文化芸術のあり方」について考え続けることが大切だと思います。

Q 今後取り組んでいきたいこと、課題や気づきを教えてください。

A 福祉施設の方から「（利用者・職員の両者にとって）オーディションに参加できたことが何よりの経験になった」と感想をいただき、このような趣旨の企画において、事前選考なしで全員が演出家の前でアピールできたことの意義に改めて気づかされました。



滋賀県立美術館企画展  
人間の才能生み出すことと生きること



Photo by Keio Shunsuke, NOT&design  
Photo courtesy of Shiga Museum of Art



Photo by Keio Shunsuke, NOT&design  
Photo courtesy of Shiga Museum of Art

日程：2022年1月22日（土）～3月27日（日）  
会場：滋賀県立美術館 展示室3  
料金：一般1,300円、高校・大学生900円、小・中学生700円  
※身体障害者手帳などの提示で無料  
出展作家：井村ももか、鶴飼結一朗、岡崎莉望、小笹逸男、  
上土橋勇樹、喜舎場盛也、古久保憲満、小松和子、  
澤井玲衣子、澤田真一、アルトゥル・ジミェフスキ、富山健二、  
中原浩大、福村惣太夫、藤岡祐機、山崎孝、吉川敏明  
主催：滋賀県立美術館  
後援：エフエム京都

●乳幼児可（0歳～） ●車いす可 ●補助犬可

人間にとって「つくる」とは何かを考える展覧会

人間にとって「つくること」「生み出す」ことは「生きる」ことにとって重要な行為であることを感じられるような展覧会とすべく、17作家151点を展示しました。評価されることを求めず、衝動的に作品をつくる作家たちは、これまでアール・ブリュットの文脈のなかで評価されてきたわけですが、最近、その言葉が拡大解釈され過ぎている事実を鑑み、冒頭でその概念の整理をした後で、これまで日本のアール・ブリュットの作家として紹介されてきた澤田真一などの作家たちの展示室と、子どもの絵などアール・ブリュットを相対化するような作品群による展示室とで展覧会を構成しました。コロナ禍で行動が抑制されていることから入場者数は目標に達していませんが（2022年2月25日現在）、新聞やテレビ（NHK）などマスメディアを中心に、丁寧な紹介が続いています。

保坂健二郎

（滋賀県立美術館 ディレクター（館長））



Photo by Keio Shunsuke, NOT&design  
Photo courtesy of Shiga Museum of Art

事業をふり返る Q&A

Q 今後取り組んでいきたいこと、課題や気づきを教えてください。

A コロナ禍で特に国境を越える移動が抑制される時代だからこそ、公的機関は、諸外国の先駆的な動向をリサーチ・紹介し、かつ、それを促進するプログラムの策定が望まれます。

Q 共生社会の実現のために必要なことは何だと思いますか？

A 「共生社会」と名乗れる社会の構成員が実際には極めて多岐にわたることを、共生社会を推進しようとする責任主体が正しく理解し、企画される諸プログラムに寛容になること。

Q 同様のプログラムを実施する際に役立つ情報やアイテムはありますか？

A 「美術展」を開催するわけではない以上、展示デザインや上映する映像には、通常とは異なる配慮が必要です。契約に制限のある公的機関でクオリティを求めることは簡単ではありませんが、本展ではプロポーザルを実施することでふさわしい制作者を選ぶことができました。





日程：2022年2月5日（土）14:00開演  
第1部 ハンドベルコンサート  
第2部 トークイベント

会場：滋賀県立美術館 木のホール（無観客YouTubeライブ配信+アーカイブ配信）

ゲスト：花鈴人（音と花と人と）

上田假奈代（NPO法人こえとことばとこころの部屋【ココールム】代表理事）

森司（アーツカウンシル東京事業推進室事業調整課長）

保坂健二郎（滋賀県立美術館ディレクター（館長））

料金：無料

主催：滋賀県、「文化芸術×共生社会 プロジェクト」実行委員会

ライブ配信視聴数：43人 ※最大同時接続数

- 筆談可（受付時） ●手話通訳（アナウンス・トーク） ●ヒアリングループ席
- 車いす席あり（席が選べます） ●補助犬可

## 共生社会に向けて文化芸術の未来を語ろう

「文化芸術×共生プロジェクト」の2年間の取組を報告し、文化芸術による共生社会の実現に向けた展望を有識者と一緒に考えるトークイベントを実施しました。さらに、障害のある方の文化活動の発表の機会を創出するため、ハンドベルコンサートも開催。トークイベントでは、まちを大学に見立てた「釜ヶ崎芸術大学」や多様な人々との出会いと交流を生み出すアートプロジェクト「TURN」など、登壇者による取組が紹介されたほか、表現と人の出会いを生む中間支援の役割を文化施設が担う必要性についても言及されました。コンサートでは、障害のある方も使いやすいタッチ式のハンドベルを使った演奏が行われ、選曲理由や奏者の想いも織り交ぜながら美しい音色をライブ配信。地域で活動する団体の活動を知っていただく機会となりました。

新谷容代

（滋賀県文化スポーツ部文化芸術振興課）



## 事業をふり返る Q&A

Q プログラムを実施して、新たな発見はありましたか？

A 車椅子席や手話の手配などの情報保障は、事前に知識を集めて準備することも大切ですが、当日の対話のなかで、障害のある方が求める情報を自分事として捉えて提供していくことがより重要だと感じました。

Q 運営時にもっとも苦心した点は？

A 開催方法の変更に伴う広報や、出演者・音響スタッフとの調整、楽曲の権利関係の確認などを短期間で行う必要があったこと。直前にオンライン配信へと切り替えましたが、出演者ほかスタッフのスムーズな対応で開催に漕ぎつきました。

Q 共生社会の実現のために必要なことは何だと思いますか？

A 障害のある方とない方が互いの立場を理解し、思いを分かちあうこと。文化芸術における交流を通して相互理解が深まる機会が、ひとつでも多く生まれていくことが実現につながると思います。

アーカイブ動画はこちらから  
ご視聴いただけます



YouTube



## 文化芸術×共生社会の未来を語る音楽&amp;トークイベント

## 「共生社会に向けて文化芸術の未来を語ろう」

2022年2月5日、文化芸術×共生社会の未来を語る音楽&トークイベントを滋賀県立美術館で開催しました。コロナ禍で無観客での実施を余儀なくされましたが、オンライン配信で多くの方々にご視聴いただきました。その様子をレポートします。

ボランティア団体「音と花と人と」のなかで活動するグループ・花鈴人（かりんと）のハンドベル演奏で幕を開けた音楽&トークイベント「共生社会に向けて文化芸術の未来を語ろう」。障害のある方も使いやすいタッチ式のハンドベルを手に、メンバー6人による呼吸のあった音色が奏でられました。4曲の演奏の合間には、選曲に込めた想いが語られたほか、震災で被災した福島県の障害者福祉施設との交流を紹介する場面もあり、花鈴人の日頃の表現活動の成果を多くの人に向けて発信する機会に。

続く第2部は、本プロジェクトの概要説明からはじまりました。実行委員会を代表し、県の担当者が滋賀県での障害者の文化芸術活動の取組経過やプロジェクトの記録写真を見せながら、この2年間の成果を報告。「県内一円の文化芸術と福祉にかかわる活動のネットワークを構築し、連携をますます深めていきたい」と、今後の展望も語りました。そして、プログラムの最後を飾ったのが、上田假奈代氏（NPO法人こえとことばとこころの部屋【ココローム】代表理事）、森司氏（公益財団法人東京都歴史文化財団アーツカウンシル東京事業推進室事業調整課長）をゲストに、共生社会という視点から文化芸術を考えるためのトークイベント。進行は滋賀県立美術館の保坂健二郎ディレクター（館長）が務めました。ここからは3人のお話の内容を紹介します。

## 「もの」ではなく「こと」としての芸術へ

保坂 滋賀県立美術館で開催中の「人間の才能 生みだすことと生きること」展は出品作家17名のうち、15名が障害のある方です。今回、「障害」や「アール・ブリュット」



保坂健二郎氏

という言葉を使わなかったのは、カテゴライズされることで既存のアートの文脈に回収され、多様性が見えなくなると考えたから。しかし、昨年視覚障害のある方が当館に来られた際に、適切に対応できず来館者の方が入館をされずにお帰りになったことがありました。共生社会の実現に向けた方針を実施・運営する難しさを改めて感じています。上田 私は日本の高度成長期を支えた建設労働者のまち・釜ヶ崎で「ココローム」という喫茶店のふりをした交流の場をつくっていますが、竹刀を持つ人や臭い人など実いろんな人が来ます。そんなときは一緒にいるために「怖いので置いてから入ってね」「一緒にいたいけど臭いから足を洗って」と、相手を見つめて率直に伝えます。

保坂 「どうしたら入ってもらえるか」と、入ってもらうことを前提とした考え方ですね。

森 向きあい方が大事ですね。文化施設は「健常者」を中心に考えてきたので多様な人を相手にするのが苦手という側面があるように思います。

保坂 そんな文化施設も共生社会のハブになりうる可能性があるでしょうか？

森 僕はポジティブに考えています。障害者への支援は、主体的に判断できる情報を提供して、本人に判断を委ねることが大事。判断を押し付けられないように心がけることが、大原則だと思います。聴覚障害がある当事者から「お店に入るとまず、ちょっと待ってと言われる」と聞きました。こうした戸惑いやギクシャクしなくなる社会になるためには、互いを知ることが課題となります。

上田 月に1回、医療相談会「まちかど保健室」を行っています。そこで「今年の目標は？」「どんなことしたい？」と書かれたヒアリングカードを配って、来た人に尋ねるんです。するとおしゃべりが生まれる。2012年からは「釜ヶ崎芸術大学」を開いてダンスや詩作、井戸掘りなど、出会いが生まれるさまざまな取組を行ってきました。また、2014年に横浜トリエンナーレに出品し、美術館前で炊き出しを行ったとき、最初は「水道設備がないから難しい」と言われたんです。でも「炊き出しは相談にのったり、情報共有できる場。それを日常的に行えば、美術館は地域の人の困りごとを持ち込まれる場所になる可能性があるのでは？」と協議を重ね、実現に漕ぎつけました。

## 登壇者のプロフィール

花鈴人（かりんと） 大津市を拠点に、精神障害、知的障害、発達障害を持つ当事者や家族が音楽と花を通して交流を囲むボランティア団体「音と花と人と」のなかで活動するグループ。

上田假奈代（うえだかなよ） 詩人、詩人、NPO法人こえとことばとこころの部屋代表。労働者の街として知られる大阪・釜ヶ崎で「インフォショップ・カフェ ココローム」を開き、多様な人を受け入れる。2012年から「釜ヶ崎芸術大学」を開設。

森司（もりつかさ） 公益財団法人東京都歴史文化財団アーツカウンシル東京事業推進室事業調整課長。NPO等と協働する「東京アートポイント計画」ディレクター。人材育成・研究開発事業「Tokyo Art Research Lab」を担う。

保坂健二郎（ほさかけんじろう） 2000年から2020年まで東京国立近代美術館に勤務し国内外の美術館の企画に携わる。2021年より滋賀県立美術館ディレクター（館長）に就任。おもな著書に『アール・ブリュット アート 日本』（監修、2013、平凡社）など。



森司氏

## 共生社会のヒントは「みんなでやる」こと

上田 言葉としてわかりづらいものに対して、まず「ふうん」と受け入れるんです。詩は言葉と身体をあいだにある、言葉にならないものでできている。私もそこを見つめていきたいと思っています。

森 言葉になる前のモヤモヤって、まさにアートや文化が得意とするところ。アートでは、人と同じことをやっていたら「見たことがある」と言われます。つまりアートって人と違うことに価値がある。私は障害の有無・住環境などの違いを越えた出会いによる相互作用を表現として生み出すTURNというアートプロジェクトを通じて、芸術家を福祉施設などに送り出すプログラムを行ってきました。

保坂 TURNの成果を発表するTURNフェスを東京都美術館に見に行ったら、ガランとしていて驚きました。

森 一般的な展覧会は人が入っていない展示空間を完成形としますよね。でもTURNフェスは人が入ったときにサマになる空間をつくっているんです。保坂さんは、展覧会を思考すると「アート畑の人間はどうしてもアート作品ありきの『もの』の思考になる」とおっしゃいました。上田さんは人が主語でしょう。このときも人どう混ざるかをデザインするかを考えて、フェスという形にしました。

保坂 TURNフェスは美術の枠組みを越えた中間支援団体的な立ち位置ですよ。共生社会の実現に向けて中間支援がどう機能するかを考えると、美術館と障害者のあいだに、中間支援団体が入って両者をつなぐという考え方もありますが、美術館という施設そのものが中間支援の役割を

左／上田假奈代氏  
右／全編手話通訳付きで配信された

持つスタンスにならなければいけないと思いました。森 障害がある方も楽しめるプログラムのためにはキュレーター（作品を紹介する立場にある人）や教育普及だけでなく、車椅子でのアクセス方法など建物の管理までを一連の流れとして、どうウェルカム感を出すのかをみんなで考えていくことが求められます。

上田 共生社会を語る時、支援する人・される人がいるように見えますが、支援する人がされる人になることもある。そういう循環がずっと続くためのデザインや、人のかかわり方が美術館にもあるといいですね。そのためには館の空間とともに、美術館の人たちがどう働くかも含めて開いていくこと。そこに時間をかけることが大事です。最初から「これが正しい」という正解はないと思います。森 みんなでやることですね。支援する・されるじゃなくて、みんなが当事者になることから始める。まずは上田さんに教えてもらわないと。

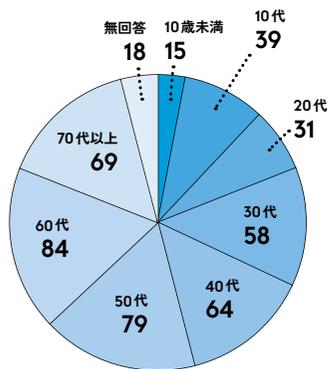
このほか、3人の話は展覧会の会場構成から美術館のオペレーションや建築、キュレーターの責任といった話題にまでおよび、国内の文化施設がさまざまな立場の人の受け皿としては、まだまだ脆弱な面を持つことも明らかになりました。一方で、森氏が「芸術には、医療的な意味の障害ではなく、文化的な視座から『障害』に対して作用する力がある」と語るなど、「みんなでやる」ことの推進力となる芸術のあり方もうかがえました。上田氏、森氏、保坂氏の言葉を緒として、より多くの人々に開かれる文化芸術の可能性を多角的に考える契機となったのではないのでしょうか。

# 来場者アンケート集計結果

※2021年度フェスティバル事業全プログラムの集計／※有効回答数457 関連企画「人間の才能 生み出すことと生きること」は2022年2月末までの回答を集計

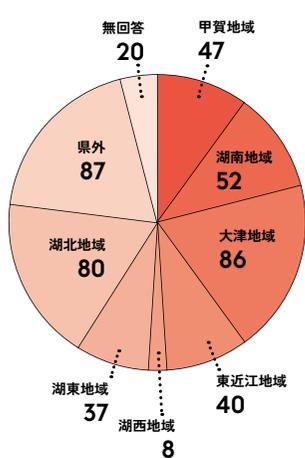
## Q1

あなたの年齢は？



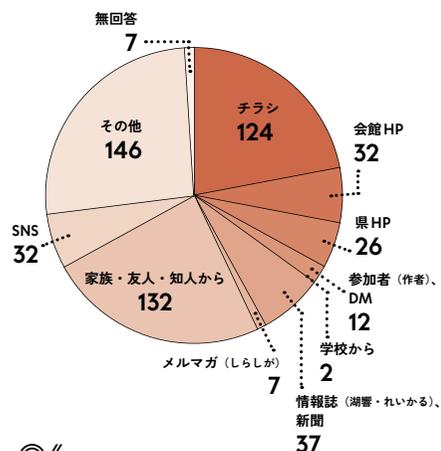
## Q2

あなたのお住まいの地域は？



## Q3

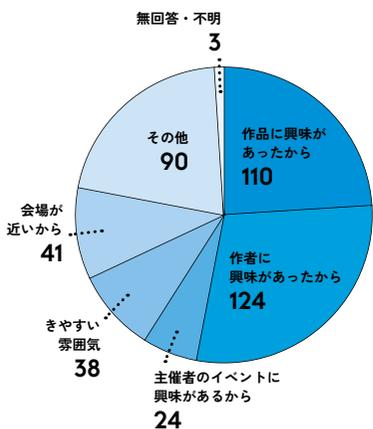
本プログラムを  
どちらで知りましたか？(複数回答可)



## Q4

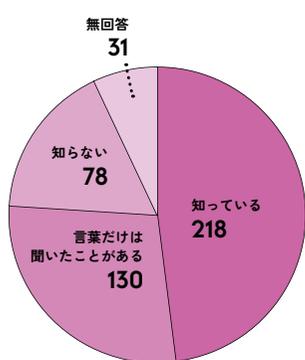
このプログラムに来場・参加した理由は？(複数回答可)

※関連企画は除く



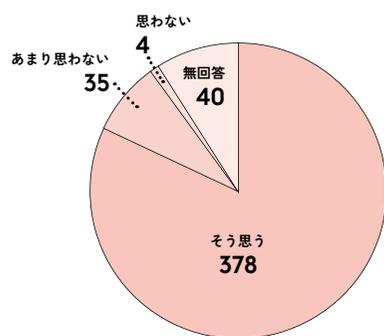
## Q5

「共生社会」という言葉を知っていましたか？



## Q6

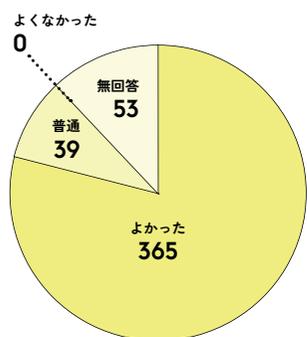
このようなプログラムは「共生社会」をつくるきっかけになると思えますか？



## Q7

本日のプログラムはいかがでしたか？

Q7の回答より (一部抜粋)



【湖北のオール・ブリュット】身近で不思議な感覚をおぼえました。作者紹介と一緒に展示されていると、その気持ちと一緒に見ることが出来て楽しかった。／正直、こんなに明るい色を使用され、また、作品も細かく、心から楽しんで作品作りされたというのが伝わってくると思いませんでした。コロナで暗い世の中になりかけている(なっている)所に、光が射した感じです。すごく心があたたまりました。

【みんなでもそう・ねんどコラージュ・ランタン】むずかしいのにすごく細かかったりして私もやりたいと思った。／無心の世界に触れた様で、ありがとうございました。  
【リラックスパフォーマンス】11歳の娘は障害を持っているが、オーケストラなどの本物の音楽が大好き。8歳の娘は車椅子。なかなか車椅子席がないので、いつもは膝の上抱っこで見えています。今日は一番前、バギーで見られて楽しそうでした。／大変楽しかった。共生社会をつくるにはもう少し内容を変える必要も。ただし、私はとても満足しています。  
【ぶんさん0歳児からのコンサート】3歳の娘

とはじめてのコンサートでした。「0歳児からの」という名前が分かりやすくハードル低く安心して申込できました。／席が子供にとってはみにくかったみたいで、もう少しだけステージが上ならなおよかったです。【『地蔵とリビドー』野外上映会&トーク】映画の背景となる事情等が垣間見えより興味深く映画が楽しめました。／自分の事業所でも、色々な活動をしているのを、何か形にしてあげたい。こちらの勝手な思いかもしれませんが。【紫の夜が明けるとき】「すれちがいは悪いことではない。すれちがうと間が生まれる。良い間ができると互いに思い合うから、そこからまた新しい何か生まれる」という最後のセリフが今日の観劇を通してより深い意味を持ってしみこんできました。／健常者と共生

社会を作っていくことは、なみたいていではありません。もっともっとこういうお芝居を作って、みんなに見てもらい、わかってもらえるよう、どんどんお芝居がんばってください。【陰影来SUNダンス】影と音楽でみんながどんどん自由に動いて自分を開放することができて見ているのもおもしろいのも楽しかったです。障害のある人もない人も子どもも大人も一緒に楽しめてとてもいいWSでした。／子どもが楽しそうにかけをあやつっているのをみてうれしく思いました。【朗読劇『かもめ』】バリアフリー公演を通じて、障がいの有無に関わらず誰でも一緒に楽しめる舞台公演はとても必要だと感じました。／開演前に、役ごとの声を聞いてもらうなど、視覚障がい者への配慮もほしい。

【人間の才能 生み出すことと生きること】視覚障害の人に絵を描いてもらう映像が、絵を描くとは何かを考えさせられる内容で大変面白かったです。／オールブリュットやアウトサイダーアート等の用語説明だけでなく、背景やふみ込んだ所にもふれていて良かったです。【共生社会に向けて文化芸術の未来を語ろう】葛藤をちゃんと抱えている学芸員の方、美術館を理解している行政の方、個人として活動していて中間支援もされている方、三者が揃わなければ聞けない話で大満足でした。挑戦を続ける方達なので、2年に一度は進捗を聞けるような会をお願いしたいです。／支援する側の人には時には支援される側になる、そうやって共生社会の輪が循環していく、という上田さんの言葉が印象的でした。

## 広報物について

モデル事業・フェスティバルをそれぞれひとつのパッケージとして紹介し、各事業の周知に寄与するための広報物を制作しました。県内外の公共施設、福祉事業所などで配布を行いました。



「文化芸術×共生社会プロジェクト」モデル事業総合チラシ(A4判) 12,000部発行



「文化芸術×共生社会フェスティバル」総合チラシ(A3二つ折り) 10,000部発行



## アクセシビリティ・アイコンの制作

本事業では、各会場や広報物で使用する共通のアクセシビリティ・アイコンを制作しました。誰もが身近に文化芸術に触れられる機会をつくる取組であれば、今後も無償でご利用いただけます。

©「文化芸術×共生社会プロジェクト」実行委員会, 2021 デザイン: 大津紙業写真印刷株式会社



乳幼児可(0歳~)



筆談可(受付時)



手話通訳  
(アナウンス・トーク)



手話通訳  
(上演中)



字幕  
(日本語)



ヒアリングループ席



車いす席あり



車いす席あり  
(席が選べます)



補助犬可



入場料割引  
(障害者・介助者)

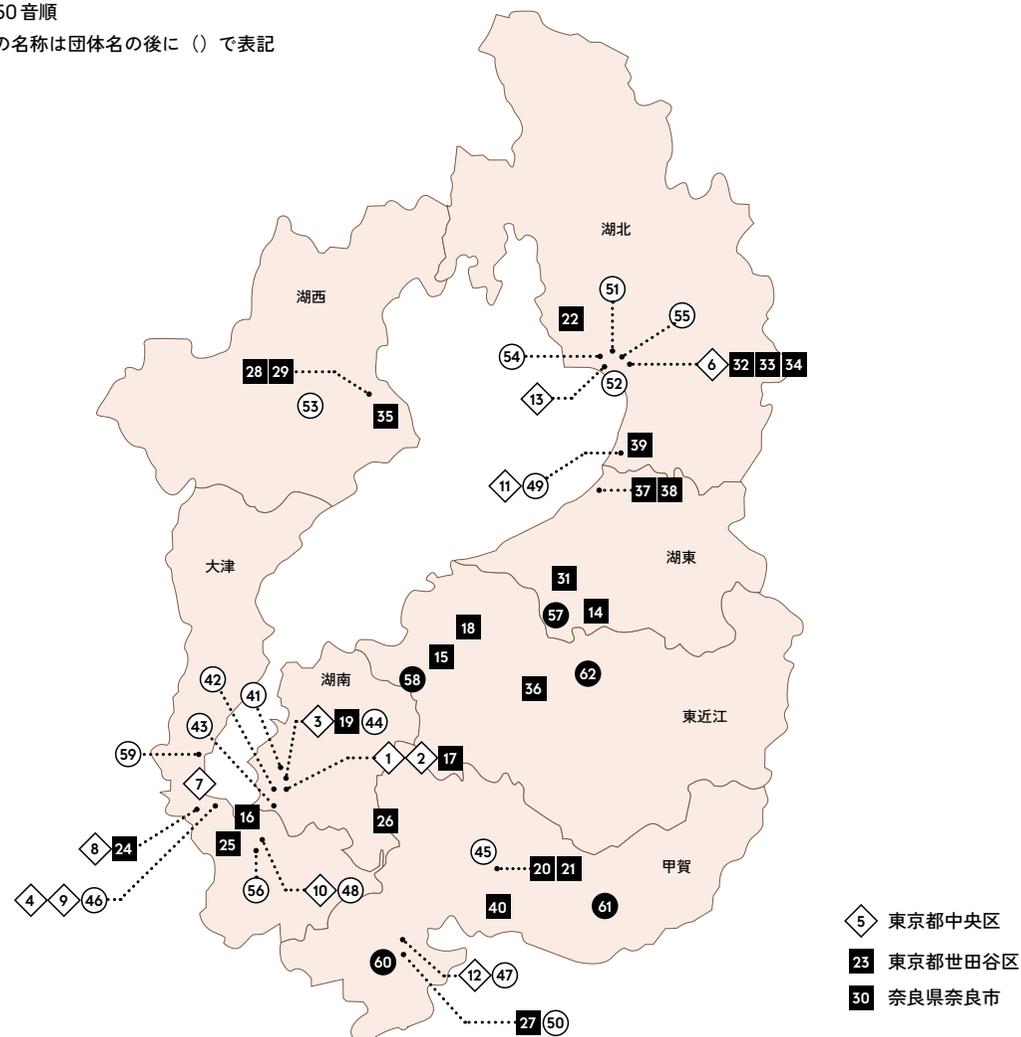


託児あり

## 関連団体一覧

※項目ごとに50音順

※実行委員会の名称は団体名の後に ( ) で表記



### ◇実施団体 (関連事業含む)

- 1 草津市 | P.7/8
- 2 草津市教育委員会 | P.7/8
- 3 公益財団法人 草津市コミュニティ事業団 | P.7/8
- 4 公益財団法人 びわ湖芸術文化財団 | P.6/22
- 5 公益社団法人 全国公立文化施設協会 | P.6
- 6 湖北アール・ブリュット展推進会議 | P.4/10/12/13
- 7 株式会社しがぎん経済文化センター  
(文化プログラムフェスティバル事業実行委員会) | P.6
- 8 滋賀県 | P.6/16/18/28
- 9 滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール | P.5/24
- 10 滋賀県立美術館 | P.20/26
- 11 滋賀県立文化産業交流会館 | P.5/16/18
- 12 世界にひとつの宝物づくり実行委員会 | P.5/14
- 13 特定非営利活動法人 はまかる | P.7

### ■共催・後援・協力・連携団体

- 14 愛荘町教育委員会 | P.14
- 15 近江八幡市教育委員会 | P.14
- 16 社会福祉法人 共生シンフォニー | P.22
- 17 草津市教育委員会 | P.22
- 18 社会福祉法人 グロー | P.14
- 19 公益財団法人 草津市コミュニティ事業団 | P.22
- 20 甲賀市 | P.14
- 21 甲賀市教育委員会 | P.14
- 22 社会福祉法人 湖北会 | P.12
- 23 特定非営利活動法人  
シアター・アクセシビリティ・ネットワーク | P.28
- 24 滋賀県教育委員会 | P.14/16/18/24
- 25 滋賀県吹奏楽連盟 | P.16
- 26 滋賀県立近江学園 | P.10

- 27 社会福祉法人 しがらき会 信楽青年寮 | P.14
- 28 高島市 | P.14
- 29 高島市教育委員会 | P.14
- 30 たんぼの家アートセンターHANA | P.22
- 31 中部日本吹奏楽連盟 滋賀県支部 | P.16
- 32 長浜市 | P.10/12/13
- 33 長浜市教育委員会 | P.18
- 34 長浜和菓子協会 | P.13
- 35 社会福祉法人 虹の会ハーモニー | P.10
- 36 東近江市教育委員会 | P.14
- 37 彦根市 | P.18
- 38 彦根市教育委員会 | P.18
- 39 米原市教育委員会 | P.18
- 40 社会福祉法人 やまなみ会 やまなみ工房 | P.20

### ○会場

- 41 近鉄百貨店草津店 | P.7
- 42 草津市立草津アミカホール | P.22
- 43 草津市立草津クレアホール | P.8
- 44 草津市立市民総合交流センター キラリエ草津 | P.22
- 45 甲賀市碧水ホール | P.6
- 46 滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール | P.5/6/24
- 47 滋賀県立陶芸の森 | P.5/14
- 48 滋賀県立美術館 | P.20/28
- 49 滋賀県立文化産業交流会館 | P.5/16/18
- 50 社会福祉法人 しがらき会 信楽青年寮 | P.14
- 51 十里街道生活工芸館テオリア | P.4/10/12
- 52 セミナー&カルチャーセンター 臨湖 | P.7
- 53 たいさんじ風花の丘 | P.14
- 54 長浜市曳山博物館 | P.4
- 55 ながはま文化福祉プラザさざなみタウン | P.13
- 56 びわこ文化公園 | P.20

### ●参加団体 (教育・福祉機関)

- 57 愛荘町立愛知中学校 | P.14
- 58 近江八幡市立八幡西中学校 | P.14
- 59 滋賀大学教育学部附属特別支援学校 | P.5
- 60 甲賀市立信楽小学校 | P.14
- 61 甲賀市立土山小学校 | P.14
- 62 東近江市立湖東中学校 | P.14

## 2021年度 関連事業

フェスティバル事業のほか、2021年度は県内各地でコンサートや展覧会、ワークショップなど、さまざまなプログラムが実施されました。滋賀県では、誰もが参加できる文化芸術を目指す多くの市民団体や企業、文化施設が先進的な取組を行っています。



機野寺×ART BRUT ~甲賀の表現者たち~ (アール・ブリュット魅力発信事業 / 甲賀市)

### 関連事業一覧 (23事業)

- ・ 79億の他人——この星に住む、すべての「わたし」へ / ボーダレス・アートミュージアムNO-MA (社会福祉法人グロー)
- ・ ニューノーマル時代にアートで人をむすぶプロジェクト / アール・ブリュット魅力発信事業実行委員会
- ・ 「Human and Animal 土に吹き込まれた命 21世紀陶芸の最先端」展 part2 / 滋賀県立陶芸の森
- ・ 希望が丘写真展 / 公益財団法人 滋賀県希望が丘文化公園
- ・ 聖徳太子1400年御遠忌・伝教大師1200年御遠忌記念企画展「西教寺—大津の天台真盛宗の至宝—」 / 大津市歴史博物館ほか
- ・ 彦根亭みずほ寄席 神無月公演 / みずほ文化センター (指定管理者 株式会社ケイミックスパブリックビジネス)
- ・ 司馬遼太郎氏没後25年記念シンポジウム / 滋賀県
- ・ オペラ『泣いた赤おに』 / 滋賀県立芸術劇場びわ湖ホールほか
- ・ 第11回まいどおおきに / 手づくり工房 種芸
- ・ アール・ブリュット魅力発信事業 / 甲賀市
- ・ 第18回滋賀県施設・学校合同企画展 ing... ~障害のある人の進行形~ / 第18回滋賀県施設・学校合同企画展実行委員会ほか
- ・ 輝&輝 津軽三味線コンサート / みずほ文化センター (指定管理者 株式会社ケイミックスパブリックビジネス)
- ・ 音と花と人と ワークショップ / 音と花と人と
- ・ 音と花と人と 活動紹介パネル展示 / 音と花と人と
- ・ らせんくらぶ・むむのこ コロナ公演 / みずほ文化センター (指定管理者 株式会社ケイミックスパブリックビジネス)
- ・ 音と花と人と クリスマスコンサート / 音と花と人と
- ・ アイリッシュハープ&万華響コンサート / 音と花と人と
- ・ 彦根亭みずほ寄席「新春落語まつり」 / みずほ文化センター (指定管理者 株式会社ケイミックスパブリックビジネス)
- ・ アール・ブリュット展「忍美神髓~甲賀の精霊たち」 / 甲賀市
- ・ 日本博を契機とした障害者文化芸術フェスティバル 近畿ブロック&グランドフィナーレ / 日本博を契機とした障害者の文化芸術フェスティバルに向けた全国会議ほか
- ・ 糸賀一雄記念賞第二十回音楽祭「湖の生命」 / 糸賀一雄記念賞第二十回音楽祭実行委員会、社会福祉法人グロー
- ・ 「ジャパン・スタイル—信楽・クラフトデザインのあゆみ」展 / 滋賀県立陶芸の森
- ・ 山元春生誕生150年記念企画展「蘆花浅水荘と山元春生画塾」 / 大津市歴史博物館ほか

## 障害者等の文化芸術活動のための相談窓口

### 障害のある人の美術や舞台表現等の活動に関する相談

アール・ブリュット インフォメーション & サポートセンター（略称：アイサ）  
〒521-1311 滋賀県近江八幡市安土町下豊浦4837-2  
社会福祉法人グロー（GLOW）～生きることが光になる～  
法人事務局芸術文化部内  
TEL: 0748-46-8118 FAX: 0748-46-8228  
E-mail: artbrut\_info@glow.or.jp  
http://info.art-brut.jp

### 視覚障害に関する理解促進や情報保障等に関する相談

滋賀県立視覚障害者センター  
〒522-0002 滋賀県彦根市松原1-12-17  
TEL: 0749-22-7901 FAX: 0749-22-7890  
E-mail: shice2@smile.ocn.ne.jp  
https://shigashisho.com/

### 障害を理由とする差別や合理的配慮に関する相談

滋賀県健康医療福祉部障害福祉課内障害者差別解消相談員  
〒520-8577 滋賀県大津市京町4-1-1  
TEL: 077-521-1175（相談専用 平日9:00～17:00）  
FAX: 077-528-4853  
E-mail: ec0006@pref.shiga.lg.jp  
https://www.pref.shiga.lg.jp/ippan/kenkouiryohukushi/syougai Fukushi/

### 障害児者を中心とした音楽教育プログラムの提供、

音楽活動の支援に関する相談  
滋賀大学教育学部附属音楽教育支援センター（愛称：おとさぼ）  
〒520-0862 滋賀県大津市平津2-5-1  
滋賀大学教育学部音楽棟内  
TEL・FAX: 077-537-7786  
E-mail: otosapo@edu.shiga-u.ac.jp  
https://otosapo.com

### 聴覚障害者への情報保障に関する相談（手話通訳、ヒアリンググループ等）

滋賀県立聴覚障害者センター  
〒525-0032 滋賀県草津市大路2-11-33  
TEL: 077-561-6111 FAX: 077-565-6101  
E-mail: shigajou@eos.ocn.ne.jp  
https://shigajou.or.jp/

### SDGs（持続可能な開発目標）への取組

SDGsは、2015年に国際連合で採択された国際目標であり、誰一人取り残さない持続可能な社会の実現のため、17のゴールと関連するターゲットが定められています。「文化芸術×共生社会プロジェクト」は、バリアフリー公演や障害のある方の造形活動、年齢を問わず鑑賞できる音楽公演など、障害の有無などにかかわらず誰もがともに文化芸術活動に親しみ、活躍する環境の実現に資するものであり、文化芸術の価値を社会に活かすことでSDGsへの取組にもつながっています。



### 滋賀県

#### 文化芸術×共生社会プロジェクト

#### 2020年度-2021年度 事業報告書

2022年3月発行

発行 「文化芸術×共生社会プロジェクト」実行委員会

事務局：滋賀県文化スポーツ部 文化芸術振興課、公益財団法人びわ湖芸術文化財団法人本部（地域創造部）

編集：株式会社MUESUM（多田智美・羽生千晶・妹尾実津季）

編集協力：ヘメンディングー綾

デザイン：Studio Kentaro Nakamura（仲村健太郎・小林加代子）

撮影：守屋友樹（表紙, p.15上, 18-19, 22下, 23中, 24-25, 28-31）、衣笠名津美（表紙, p.12, 14, 15中, 20-21, 22上, 23上下）、山口健一郎（表紙, p.13）

